



大和五記

第十五
高市郡

特別
'儿全
3979
11



ル4
3979
卷 11



和州舊跡函考

第十五卷 高市郡

細川山

南側山

稻側山

東西の市

稻側坂

小壑回宮

新漢槻

龍蓋寺

付 蒭蕘 樵吏 禁制事

淨御原宮

釈迦事

白日王立埋跡

板田橋

付 如意輪像事

和州 第十五卷



昭和十七年
三月十八日
購求

逝回冠

飛鳥毘本宮 付

厩坂宮 ○百濟宮 ○田中の宮事

後飛鳥毘本宮

後園

橘寺 付 佛頭山 ○勝曼經講會定日 ○

聖德太子遺像 付 藥師 ○再真事

田中の宮

厩坂

厩坂池

橘宮

寫宮

勾池

真名池

川原寺 付 東南院

○西南院事

海石榴市

常林寺

山田寺

藤原宮 付 炎上事

大原

藤原

埴安池

大織冠家地 付 大織冠事

藤原宮三井

藤井原

衣通姫家地

法光寺

身仗桃花鳥坂陵 付

鬼魚板 ○鬼電隱

事

桃花鳥坂上陵

桃花鳥田丘上陵 付

鬼頭回 ○法師頭石

事

味檀丘 付 湯起請事

万葉 向山乃君は六段波にける人の

同 真十流南洲山はくもも白雲をたてて

井蛙折 月夜よ霞るあさせもさり南洲山の雲

皇極天皇元名は八月南洲乃川上は幸

あると傳りて西沢山は後ふよ水膝をほり

世四奇神孫と世後ひより雷雲よ鳴渡

るるは地よ波とあへく又自晴しり

程より國土はくは神ひひ天下豊成よそ

あひけり 紀日本元朝四奇神乃りとも也

天武天皇は南洲山細川山草紙州

新と山草紙禁制あり 紀日本

南洲山

秋のやまの山乃りす霞より新花を

同 南洲の山といはれ事ハ秋南洲乃流

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

南洲乃細川山はくもも白雲をたてて

是本宮より修りては年宮成是本宮の
為よ所々あり也飛鳥浄御原宮と号し
う修りありし時後小同二宮ありて即
後御りくあり同十二宮室一處ありて
兩參けりし志あり修りて先難波都あり又
十三宮幾内心あり乃都の地と云ふ
是天皇と系作し巡幸御りく宮地と
ゆふめ修りよ又みや山然しは世修りよ
よと信徳國乃島とあり記あり十
甲子朱鳥元年と改えありその八月
飛鳥浄御原宮より修りて後小同
天武天皇二年より延寶七年迄凡一千
七年あり

万葉の
明日香乃法御原乃宮よありて下ありし
先以陽祖之昔大表乃よりて目之皇
子ハ何方よ修りしめてり神風乃修り
乃國よと伴津藤と云びたり波よ畧

東西の市

勅撰在所集藤樹茶あに山城國とあり
一陸家よありたり

東西乃市ハ天武天皇大寶三年よりありて
之より修りては年宮成是本宮の
門部王東市ハ樹成あり
東市乃よりあり是是た在ありぬ
西乃市ハ只獨あり月ありて買しはぬのわ

戸成や梅ももあぐり入もりきり教魚行ひる
所ゆりきまじバ大仁乃位のまじりて近江國
坂田郡水田二十町賜りり記多は山田代
て天皇乃由為よ金剛寺と攝管より南
坂田寺是なり日本 夫亦乃佛使侍菩薩ハ
多須奈乃遠美なり日本 勢他多ハ多須奈
乃子司馬達寺乃跡あり

聖德太子乃上宮代宮よまらけし
佐奈折よあり多武乃奉の藤上
宮村は乃太子の宮ゆて上宮ハ
初頼ありりりハ十市郡よありて
此の二所よありけりや
小墾田宮

武林折云大佛供乃里と云ふ也。小墾田宮
とて此社ありそま宮也。今今在在と
ま今今と云ひり。大佛供乃里の福井
村の所乃ねいよあり十市郡あり
御とて枝葉記曰小墾田宮の大和國
市郡高野王乃とあり地是なりと云
折 又續日本紀曰大和國高市郡治田宮
也と云。又新書曰小墾田坂田屋寺と云
は寺の標橋山乃也。此記乃也。ありて
りて市郡ありて大佛供の里と小
墾田坂田屋寺といふりりるるるる
人下也とありてありし

人皇世四代推古天皇豐浦宮よ陽位あり

て小墾田宮より行り後小人皇女六代皇孫
天皇ハ舒明天皇乃后女也心まそくろり
本宮より即位せし海して元皇九月宮城
はより後ひをんて國くよははきく
やろろ志免東行遠江國河内郡西行安藝
河内郡下とありて宮はよりとありて
二月小墾田宮より行りて後日記日本
葛野王乃家地ありて
一人皇四十八代聖德太子天皇天年寶字
年中治田宮より行幸あり又四十八代稱徳天
皇神護元皇より大和國之市郡小墾田宮
より行幸ありて茂濃國河内郡小墾田宮
前國河内郡伎守よりて大嘗會河内郡とあり

後日記日本紀より行り後小墾田
宮ハ人皇女六代皇孫天皇より行りて後
遷都すびくは行りて此代より行りて
皇年凡百六十歳と経ぬるは
宮城のより行りて又
小墾田宮乃宮在道いり人皇孫後
白目王子立撰跡
ままは
也日記日本紀より行りて一
愛よあり

人皇女一代安閑天皇乃神宇大尊
の御子也眉輪王也心あり安閑天皇

蓋六の北極よりなりぬきせ後ひよ眉輪王志
 乃びひやくく雲一もりなりなりくく日本紀
 ありまは北極天皇のまご春宮より
 内もまごのつひとせなり死ぬくいり後ひ
 よりのひは北極の皇子劍成ゆへあり軍勢
 年一してまごの北見乃黒目王子乃より行
 ありてくく乃の事こそあきことせなり
 後へまごの黒目王子ゆへく北極の皇子
 しくは北極の皇子劍成ゆへく討後ひは
 正そまごより白目王子乃よりなりてく
 せありけまごの白目王子もせなり死後ひ
 したるまごよりまごの門乃外より引かしく
 田よ死せたりまごの死後ひよりまごの死

海ぐくお乃よりぬきくは兩目よりぬけて
 命とり後ひなり
 西あり
古史日本紀とけく

新漢擬本南並墓 西あり

大御前皇子眉輪王と討後ひをんと進み後ひ
 しくは黒目皇子の眉輪王とのまごの
 田大長乃宅より後ひふやうて家よ大
 とそひけりなり黒目皇子の眉輪王とのま
 やくまありなり乃の坂合部連賢宿禰
 子乃屍代ひてまごのまごの死なりその
 骨と一棺の感入く新漢擬本乃南並
 堯アまごのまごの日本

板田橋

細川乃あれは心也所也やうあり板橋と
 つくより南の坂田屋寺少津身原の
 小壘田乃板田の橋ハ先達堪津の由
 昔より小壘田乃坂田屋寺よりく
 きたる安乃坂田の橋もらある也
 師兼千首 此寺の勸字所より一説大和也
 といへば板田乃橋の心也よる事ありと世に
 龍蓋寺 寺領二十五石

東光山龍蓋寺真珠院ハ信よ是本寺と云ふ
 抄 舒明天皇乃白皇辰是本宮乃地あり
 くぞいふある天智天皇乃此院義剛僧
 正の開基あり義剛僧正ハ化生の人あり
 が天智天皇いはくはくはありてと皇太子

おれやうよ是本乃實ありて此よりあり
 向くく人とり信ひく後家して人にと
 るに智人とありありありありありあり
 大和乃龍蓋寺龍門寺舒福寺と攝造せ
 已大慶三年僧正よ任ト神龜五年十月よ
 遷化より
 ▲本寺ハ如意輪觀音菩薩あり初ハ一標
 寺乃六臂の小像と道鏡様ゆ乃遠く
 二臂乃像とけり乃乃小佛と傳時よ
 ありありありありありありありありあり
 佛ハり削法皇乃遠くありてそれあり

上りて又年乃や〜
長薩乃り水くみ〜

逝回岳

仙覺抄大和園寺同所あり

故御豊浦寺之屋松房安歌

明日香河逝回岳乃秋秋と云ふ海ありり舟比 眞人

黒人乃逝回乃岳の小世系風と云はひ

龍馬園本宮 村版宮百濟宮 田中宮

帝王編年曰宮乃東の龍馬地也

林抄曰龍馬宮ハ橋寺乃東逝回龍

則今乃園寺乃地ありと云

人皇卅五代舒明天皇二年十月都代死

後山元八月六月は宮貴上あり〜
後山元八月六月は宮貴上あり〜

乃奉あり十二月四月還幸ありて版取宮ハ海

〜
版取宮ハ海

三月十月は宮あり〜
版取宮ハ海

舒明天皇二年より延寶七年迄凡千五十年

後龍馬園本宮

龍馬園本宮

人皇卅八代舒明天皇二年龍馬乃龍馬

て更宮地河あり〜
龍馬園本宮

乃園本宮と云ふ事ハ延寶七年

迄凡千二十四年

後園

信登傳曰高市郡難波乃銀池乃水
 多於小林苑中と多く撰集新通要
 是と信用とありのりんくより在要折
 曰橋寺乃うしとる十余町ありて水
 系とみみ所そ乃流あり

聖德太子沖年十一而して童子達廿六人と
 いざよりせ後ひく後園よひて海く詩句
 乃此あそびありよ童子達いさるるにとせ
 且太子くくもとれあせ後ひく句句詩難
 ト後ひく童子達入りあり海で父母よ
 ひくひは事ひとくく海よるり後ひくは
 父母難詩とほりてとるり後事ととるり難
 波とに後少よあたりうるもとと事事と

天皇我見聖人ありまはいぐくはわらん
 やと敷通ありく祀とありまよあこび給
 ゆの平氏傳よりくくくあり

橋寺

和持折云高市郡と多く後苑と思本

實より西入町とるり

佛願山上宮院菩提寺と又橋寺とを以て
 平氏傳小推古天皇十四の七月聖德太
 子とゆめりて後く勝鬘經と傳を以て
 後ひく三日後く傳と有りけり日本其
 傳舎乃儀の聖德太子塵尾現り所子
 塵よのほり後ひくは事く如家乃くく義
 ぐ伊ももりく乃后僧大德其妙義

神宮の御宇にまゝく由緒をたゞあへん世傳ふ
よひとありたりあり傳説の如く乃新運祀
始り玉座く地のみりまゝとる乃をこれと
昔の如くして二三尺ありたりとるやこまよ
りて皇居成施し寺儀成りたりとるなり
今乃橋樹寺これあり平氏傳あり西院瑞
花の曼陀羅花白あり木茂乃枝葉あり乃
ありはみし西を金堂と傳説乃同より
傳り鎮守明神と推古天皇也社人水
よひとる玉林
▲佛頭山又聖峯曰又赤部中も山通要監勝
ハ勝曼徑儀舍乃付清涼殿乃前乃山
頭よ千傳乃由く現ありたりは山号

也きき玉林は山今よありとる清涼山と名
ありとるさ十四八又まぢり亦上宮院と上
宮太子乃所建起り院号とるを橋
と橋乃都乃皇居の地をれば寺乃若よ
らるるん碑文ありと其詞
上宮太子勝曼講讚之砌予佛涌出蓮花
庭前下玉林
▲勝曼經講舍乃定日由り乃あり傳
中よ年曆乃異とありつと平氏傳より
推古天皇十四年とる法皇帝記より
同御宇六年とる玉林ありたり平氏傳證
よるべれ乃の玉林あり上西海人乃志を

鴻宮乃由美池のりりなるありあひのあまひく池は
 右橋乃鴻の宮又鴻宮勾池真若池を
 作りしよ水志事も鴻乃宮の親も後を
 爰よあつらひ後乃人添削も於て

川原寺

橋寺乃二町をりりわびり乃礎石あり
 草堂一宇古佛乃二天ありびよ十二
 天乃像あり

川原寺亦弘福寺とも云人皇世六代皇
 極天皇重祿ゆりて齊明天皇とす
 なる世八代もそあつらひを繕ひつらひ
 宇元と云徳も乃川原宮より作りおらせ
 り川原寺御遠立あり詔四十七代天

武天皇十四年淨土寺ありびよ川原寺よ
 行幸あり後ひく信元も福徳なりあ後ひく
 同永元元年新羅乃客館もてあめして川
 原寺乃伎樂院はつらよとこころも後ひく
 よ、皇太后も稲久十束施入あり同五月帝
 乃由まひやとくつらありし六萬師徳念を
 ほとめしき六月燃燈供養九月親王已下
 爰よほひひく天皇乃由病乃誓願あり
 日本 其後世く代経く五十三代徳和天皇
 弘仁九年弘法大師高尾山よりる野山よ
 久りまん乃のりよあえしつら上天皇川
 原寺代大師よ後つらとくする野より都よ
 のよひ後山道乃やどりあよとくつらよとの

山田寺亦名嚴寺也孝德天皇五年
藤原山田石川麻呂大長天皇乃御之
孫遠く山田寺と号り同年三月廿四日
終より大長城を築くの人あり
よより日本紀廿八卷より今只曝乃
十一面觀音菩薩と云ふなり後一条院の
御宇長元七年檢校善妙僧大長之忌日
城をひくめく海軍八條院終行
きくとも礎今よ海より多武岑
畧記

藤原宮

叙日本紀曰此地ゆづりあり玉林抄云
氏族畧記曰藤原宮ハ高市郡野
栖坂乃水あり多武岑の記曰藤原乃

宮ハ大原をり今ハ其の後苑を是と
宮乃旧地より良三四町をり近年由遠
宮乃大徽冠の大宮是也

藤原宮ハ人皇四十一代持統天皇飛鳥乃淨
池原よひまら乃時御宇四年十月高市白皇
藤原乃宮地代んそあり終ふるに藤原
佐よきくがひに其年十二月天皇行幸あり
終ひく藤原乃宮地代敷洗あり八年正
月藤原宮よ行幸あり同十二月よ
うけり終ふるあり日本慶雲元年十一月
うめく藤原宮地代終く宮中よ
百姓一千五百人烟と入しめ布成終ふる
あり

續日本紀

四十三代元明天皇四年藤原宮炎上より
帝王編年

大原

藤原同所異名

我軍の大營をすり大原より小里より海に天皇
是ハ清浄原乃宮より小海を後中

藤原

万葉

藤原のあり小里乃秋葉子吹くはりはる
吾背ふはり小里の明日香のふも

右明日香より藤原宮より行りて

後け秋とあり

植安池

山部宿禰赤人故大政大臣藤原家

山池沼あり

万葉

いめへ乃ちん堤は年ぬれ池乃ちん水草は
八隅船之わが大原の高照日乃わつと
乃藤原が原大御門より後ひく植安乃

堤乃人よありとすしはり後書は略

同 白妙乃麻の衣を植安乃池乃原ありの池と日

乃ちまねるやん

大織冠家地

今んるよ後よ後生乃地とくさり
そまの園ありそまの埋井ハ産湯乃
井とくさりそまの藤原乃池井乃清水

あやゆりそまのたよあり

大織冠録是ハ和列高市郡人なり
叙書郡

乃大原藤原乃弟也して推古天皇廿一年申
 戌八月十五日よむまれ後小多成母少推古天
 皇廿一年々矣國よあられ里後乃人あさるま
 ざり於入し亦乃親ありく由さりの大臣じま
 道後へるま常陸國の利
 ▲大織冠と天兒屋根余乃由を急よそあは
 また天智天皇八年十月藤原乃内大臣藤原
 足るやまそと母のりきまは勅とて東宮
 天皇 天智 乃家よはつりゆりて大織冠
 と大臣の位あさるま藤原氏よそ後りけ
 於その翌日年五十のりてうせ後ハ元又五
 十六歳とともあり日本紀廿七卷よさうく
 乃こりけ大織冠と正一位乃さうりあはる
 傳さるまそとあまれあはるゆり大織冠と
 たり

藤原宮御井

八隅細之わがる表乃字也も目乃わらみと鹿妙
 乃藤井が原天御門より後ひく殖安乃理
 のう人よあまそとくく後へま日本乃青
 香具山ハ日乃徑の大御門よ春山海し
 みまびびくくもあは乃乃の表豆山は目
 乃大御門よ油豆山と山あびいん
 乃青菅山ハ背友乃大御門よあ
 神あびいんくもあは乃乃古野の山は
 親友乃大御門よ雲原よそとくあり
 乃細や天乃御蔭天祖や目乃神乃

水一帯よりあらしめ御井乃清水

此歌乃あらしめ御林探葉白藤原宮系
西南北乃大御門とまきまきより初乃
二川の目乃経緯よりありて方角とあり
をり後乃二川の山乃陰陽とありて
とみより因茲日本紀以東西為目経
南北為目緯山陽曰影面陰曰背面是
以百姓安居天下無更憂

藤井原 藤原御井同所

万葉 鹿野 藤井 原 藤原御井同所

紫乃藤井乃松乃春はまの松は後

衣通媛家地

衣通媛はひらきしるしに衣よりこころぬ

埋まる墳へりおまは傷痕命乃徳

そゆし世石棺あらしめ

傷痕命ハ人皇十一代垂仁天皇乃母君乃御
弟あり御宇廿八年十月廿日色也世絶ひく
十一月廿大和國身授梅花鳥坂乃陵よあめ
経是よりそ乃程の世乃あらしめひめく進く
此より海はる人こそいさあがら陵乃あがり
よまらうけはまおしけまきとらふく死あまらて
朝夕よ返るあし奉りたりあし終よ命を
あまらく爛ねまきばいぬるあしあしあまらき
敬なり天皇返しあまらあまらあまらあまら
ありと終りあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

如 卷廿五 七

志乃びあぐら垣見とさせ後ひしよ夜通嬢
ひとり長衣がゆめて

つぎらるる夜見よひありゆきぬとれとこあひ
天皇は秋とまこころめより清心よひとめく
しゆして

ゆきぬる所地乃ひも秋とれさげくわきこねど
よきく一夜乃とくくハ目奉礼よんをり

法光寺は後西よりと

法光寺も中長寺ともいひけりありあ
て藤原寺ともいひ大織冠乃氏寺
て大和国よあり拾芥

身徳花鳥坂墓

橋寺より西七八町がより信よ生る

御年七十三ありて満あり後八十一月よ
は陵よりくしなり皇辰橋皇女其孺を成け
陵よ合葬とあり日本 延寶七年迄凡一千
百四十一年歿

花鳥田並上陵

花鳥田日本紀 花鳥田鏡花鳥

花鳥田日本紀 古式

花鳥田並上陵ハ人皇二代饒靖天皇の

くしなる大和国高市郡よあり延喜御宇

元三年五月為御あり後八御年八十四日本

又四十五歳古事 翌年は陵よ葬なり日本

延寶七年迄凡二千二百廿八年歿

は西よ信よ鬼頭田といふありそ乃田の

中よ衣もしくはさきる願二河そ乃さご
みさきるやうつぬ乃も乃も乃も乃も乃
い大にめして貴王乃親よ似より一河を
御師乃願あり於西乃言に園乃うへよ
儀よ耳さ乃池とゆありあがりよ衣と
たくと本河さうへより心と世のつり外
車臺乃池と十市郡取山乃藤よ
しうゆきおりよは乃石棺乃蓋をく
ありよよ乃げうう水のをえけきき
くはいひあーきるとんてまうは道
よ思山ありいさ記たのううして未
らるるにゆげり儀よむー乃湯起請
乃らぬぬ乃ぬといりおりよさううを味

檀丘なりべし
味檀丘

は味檀丘代昔少よ是より十四五町也よ
ゆききく豊浦寺乃乃りぬる川よ
いりて味檀丘ゆくしそゆめぬる川
よあまがぬ乃わたりとふありあまう
乃序言るるべし玉林折曰申檀嶽八豊
浦寺乃東橋寺乃水とまき帝王編年曰
高市郡とまき
元恭天皇乃御宇四年より乃乃姓内と
ありしめと事しるるりきき申檀丘よ登
御と神よりひゆ熱湯御ゆしゆりけ
ゆせるる乃宣勅ありしゆべらうく乃乃姓乃

和
卷廿五
七五

人湯のみ齋戒して味檀丘と行くと乃く
本綿羊強とけ掌よけの宮あり人のた
くよよとあく流りわるとるこあるまじ
也少あをそしるのまじし流りわると
母しりたとそま流りよとみえとてま
そ流り退りたり流りよとめりて氏姓
とい流りわるとる人そし日本是より後乃世
帝よハ世くよ本系流りまじ圖書察し納め
所またりけりけりまじま熱湯流り
まよりけり或ま流り火乃色よ流りて掌
まより本朝湯起請乃初まわると日
本紀よ弘仁私記天書等乃證書流りたのせ
てよりくハ流り

丹檀丘須弥山

奇明天皇五年三月丹檀丘乃びぐ乃流りよ
須弥山流り

丹檀丘宮門

はとを考漸寺乃近記をりえ乃丹
乃南よあを湯起請乃あを流り
ごるを丹檀丘乃色丹檀丘乃流り

丹檀丘宮門

東檀丘宮門ハ皇極天皇三年十一月
我大臣殿流り乃入鹿長とああり
檀丘よ家とけりり大長乃流り宮門
とあ入鹿の家と谷宮門と男女を流り
五子といせを家乃外よ垣り

門乃々りりよ共庫紙をへ門くよ水舟と
 人よりなるを火災とせりんはひり
 力人よ海もせりん五寸人乃共紙集よ
 ちこぐく出入よいゆり色立をきり
 此ゆてひんよ世乃改をきり記ゆり長
 直よ紙ゆり大丹穂山よ梓削寺紙を
 ゆりよ紙傷山乃ひがよ家はきり世池と
 ち城とてハ庫紙ゆり紙はきりきり
 あらだくくゆりゆり同御宇四年六月よ入
 庶大臣紙禁中よあよせきりたづりて紙
 後ひりり紙蝦蟇大臣紙きりきり
 船定恵尺きりゆりゆり國記をきり
 日本入庶大臣亦

乃右を鞍作又ハ左を御をきりもゆり
 皇極天皇三年より延寶七年迄凡一千世六
 年欽

越智

湯起禱乃園より西一里をりり太平紀
 小市園上陵 付間人皇女陵大田皇女墓

越智

人皇世八代齋明天皇大和園高市郡越智
 園上陵より延喜けり朝倉宮ゆり

あり終ひしガそのゆへ朝倉山乃う人より鬼大
笠成りてく墳塚成のそをり天智天皇六年
二月齊明天皇又間人皇女成水市国上陵よ
のうへなる又太田皇女と陵乃う人の墓よ終
なり 日本延寶七年迄凡一千十四年次

万葉 越大野

飛鳥明日香乃川乃上瀬よ生れ武彦よ
下瀬よあられ梅造り成武彦よと 中畧玉造
乃越の大野に朝霧よ人丸
敷妙乃袖えし一君玉造乃越野成り人丸
とわいもやと

久安百首 衣或本日葬河内皇子越智野之野成り
花乃人成越野乃成り成り成り成り成り成り

真弓岡 越村乃南真弓村

万葉 作不忠し檀園之君由常都山と成り成り
鳥垣立飼之雁乃兒栖立者檀園成り成り成り

檀園墓 成り成り成り成り成り成り成り成り

皇極天皇二年九月成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

依太岡

真弓村乃成り成り成り成り成り成り成り成り

万葉 橋乃成り成り成り成り成り成り成り成り

約成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

冬野寺

成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

冬野寺又ハ妙金寺と名付り建立ノ時代さ
うありけ 又武岑

滑谷園陵

冬野村乃海より依りてうく乃古墳也
以是のりんり滑谷俗をあらうにそふ
舒明天皇滑谷園よりもうぬりて乃ち
埤坂肉山陵より依りて又乃ち死棄く五日
本紀あり

菅原相山店 西よりむ

昌泰元年十月十五日太上天皇 宇多御
鷹狩乃菅原乃行啓あり後ハ
小八真敷親王 清和天皇 右大将菅原朝臣
天神 其外六位等共二人はくう海店あり

上皇寮馬めめて道中より乃てく 誠巡
洗内りくけりゆ之素性法師前並りてはく
まろを於廿三日高市郡右大納乃山店
御一宿をさせ給ひく 和歌をとりて
玉編年記あり

小野榛原

神樂註秘抄曰榛榛と名ありあり
村より埤一里をり行くと上乃を記
とて下乃を記とありとて空え傳
於後乃人ゆづりにてなりし
神武天皇海内平後ひく天神
里作小靈時と鳥見山中より其地
代上乃小野榛原下乃小野榛原と名あり

けく皇祖神代もたりの後ハ記日本上乃水
野ありてハ天神代下乃水野にそハ地祇
代もたりの後ハ記日本

鳥見白山本紀

又鳥見の白庭山とも云り所云らむ
鳥見の向山と饒速日乃天磐船よめて
天々より河内出河上峰岑よ鳥見別
大和國鳥見の白山ようたり鳥見天磐船
よめて大鹿堂とけりハ御代ハ後ハ
て天降まも鳥見虚空見目奉國と宣ぬ
也とありは神ハ天照太神高皇產靈等と
あひともよあそ由ハ故よ天孫とハ皇孫
とハハなるハ舊事

鳥見山

鳥見山と神代天皇長髓亮とたつハ後ハ
一対金色乃靈鷲形より皇孫乃珠よと
由より其鷲光うやく奉流電乃ハ
よりまれば長髓夜軍破より鷲乃瑞代
得後ハハハ鷲色と名代をハ今鳥見
也ハハハハ舊事

和列舊跡幽考第十五卷跋

卷十五

三

